

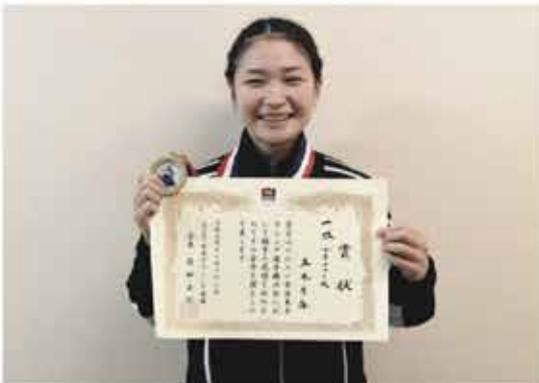
2021 全日本ボクシング選手権大会



なみき つきみ
並木 月海 女子フライ級
 3等陸曹

初優勝

全日本選手権
念願の初優勝



1位の賞状と金メダルに笑顔の並木3曹

令和3年11月24日から28日の間、東京都墨田区総合体育館において2021全日本ボクシング選手権大会が行われた。本大会は新型コロナウイルス感染拡大に伴い2年ぶりの開催となったが、感染拡大防止のため無観客で行われた。

自衛隊体育学校ボクシング班からは秋山佑汰2等陸曹以下男子7名、女子2名が出場し4名が優勝するなどの成果を取めた。

女子フライ(51kg)級に出場した、東京五輪銅メダリストの並木月海3等陸曹は初優勝を懸けて今大会に臨んだ。五輪以外にもロシアの国際トーナメントで2連覇、2018世界選手権で銅メダルを獲得するなど、これまでに8つの国際大会に出場し7個のメダルを獲得している実力者だが、全日本での優勝経験はなかった。

初戦(準々決勝)は、尾関奈津美選手(日本体育大学)との一戦。序盤から安定した戦いを見せ、後半はさらに攻撃を強め圧倒しWP5-0で好発進をきった。続く準決勝も安村可麗選手(芦屋大学)を相手に一步も譲らず、序盤から攻め抜いた並木3曹がWP5-0で勝利し、決勝に駒を進めた。迎えた決勝の相手は木下鈴花選手(日本体育大学)。前半はガードを固めて攻め、後半は得意のステップワークで巧みに攻撃し、5人のジャッジ全員が3ラウンド全てで並木3曹を優勢としたWP5-0の完全勝利で初優勝を飾った。また優秀選手賞にも選出された並木3曹は、試合後「優勝できてホッとしている。」と率直な心境を述べ「来年行われるアジア競技大会ではしっかり金メダルを獲得したい。」と今後の抱負を語った。

男子ミドル(75kg)級には東京五輪代表の森脇唯人3等陸曹が出場した。10月25日から11月5日までの間に行われた世界選手権大会にも出場、隔離期間を経て全日本選手権大会に臨んだ。

初戦(準々決勝)の相手は須永大護選手(東洋大学)。持ち前のパワーとスピードで相手を圧倒し、WP5-0で危なげなく初戦を突破した。準決勝は田中原人3等陸曹との同門対決となった。お互いに激しい攻防戦を繰り広げたが、森脇3曹が試合を支配しWP5-0で田中3曹を下して決勝進出を果たした。4連覇をかけて臨んだ決勝の相手は近藤陸 陸士長と、またしても同門対決に。近藤士長も健闘したが、森脇3曹がスピードやテクニックで圧倒し、決勝もWP5-0の判定で堂々の4連覇を成し遂げた。

並木3曹と同じく優秀選手賞を受賞した森脇3曹は「最近では自分の力を出しきれず国際大会でも結果を残せなかったが、今大会ではやるべきことはやれたと思う。全日本を獲らないと国際大会へのスタートラインにも立てないので、優勝できてよかった。」と大会を振り返り「先輩たちが世界選手権で金メダルを獲ったことに刺激を受けた。次こそは自分が獲りたい。」と意欲的に語った。

王者の貫禄
 見せつけ **4連覇**



果敢に攻める森脇3曹(右)

